

子供には食べさせたくない  
**遺伝子組み換え**の  
5つ危険性と影響!  
GM、GMOって何?



## 子供には食べさせたくない遺伝子組み換えの5つ危険性と影響!GM、GMOって何?

### 【目次】

- 遺伝子組み換えとは?GM、GMOって何?
- モンサント社とは
- 日本で流通している遺伝子組み換え作物とは?
- 遺伝子組み換え食品による5つの危険と影響
- 遺伝子組み換え作物の世界の栽培状況
- 農家の自殺と政府の癒着
- ラウンドアップは日本で売らましよう
- ミツバチが消える蜂群崩壊症候群
- 私たちができること
- 最後に

私たちの食を取り巻く環境は、人類史上極めて高度に汚染されています。

今まで安心安全に食べられていた食品を、人々は遺伝子組み換えという新しいテクノロジーに委ねようとしています。

それは世界的な人口増加による飢餓の問題や持続可能な農業への転換など、遺伝子組み換え作物に期待するところが多いのかもしれませんが。

しかし、私たちは感じとっているはずです。

多国籍企業が政治に深く浸透し、巨大なマスコミの影響により情報は歪曲して届けられ、科学を無視し、利益だけを追求しているということ。

なぜ昨今、発達障害、不妊、ガン、白血病、アレルギー、精神疾患が増加しているのでしょうか?

医療が発展すれば病気が少なくなるはずが、年々病気が増加しているのはなぜなのでしょう?

1994年にはじめてアメリカで遺伝子組み換えのトマトが栽培されて以来、遺伝子組み換えの作物は急激に拡大しており、アメリカで生産されているトウモロコシの92%、大豆の94%、

綿の 94%は遺伝子組み換えになっています。

そしてスーパーマーケットやコンビニの棚に並べられている食品の 75%以上は遺伝子組み換えの原料で作られており、私たちの気づかない間に食卓にあがるようになりました。

しかし大多数の日本人は今食べている食品が、遺伝子組み換えだということは想像もしていないでしょう。

世界で最も高い割合で、遺伝子組み換え食品を食べている国は日本だと言っても間違いありません。

しかし、食品の成分表示を見てもあまり「遺伝子組み換え」という表示が見当たらないですよ。

これには巧妙な表示のトリックを理解しなければわからないようになっています。

遺伝子組み換えについて知ることはあなたを含めた大切な人を守るための最大の武器になります。

多くの方は無関心であり知識がありません。あなたは知ることで孤立するかもしれません。

しかし大切な人を守るためなら他人の目を気にする必要はありません。

それでは遺伝子組み換えについて見ていきましょう。

## 遺伝子組み換えとは?GM、GMO って何?



遺伝子組み換えとは、他の生物から遺伝子を抽出して、その生物が持っていなかった性質を作り出す技術のことです。

遺伝子組み換えの技術により、「腐らないトマト」、「羽のない裸のニワトリ」、「光る魚」、「光る猫」などの背筋も凍るような作物や動物が誕生しています。

遺伝子組み換えの表現として「GM」、「GMO」というような言い方をします。

まず遺伝子組み換えを英語で言うと「Genetic Modification」になります。略して「GM」になります。

そして遺伝子組み換え作物のことは英語で「Genetically Modified Organisms」と呼びます、略して「GMO」と呼ばれます。

遺伝子組み換えの世界最大の企業がモンサント社になります。

現在はバイエル社がモンサントを買収しています。

## モンサント社とは



モンサント社はアメリカのミズーリ州に本社を構える多国籍バイオ化学メーカーです。

ラウンドアップという除草剤が主力の商品になり、遺伝子組み換え種子の世界シェアは90%という巨大なグローバル企業です。

モンサント社は、人間の健康および環境の両方に脅威を与えているという理由から健康情報サイト Natural Society より 2011 年の世界最悪の企業に選ばれています。

また、2013 年に行われた反モンサントデモには、世界中で 200 万人以上が参加しています。

2015 年に行われたデモでは、40 か国以上の約 400 都市で行われていて日本以外は年々規模が大きくなっています。

モンサント社はもともとベトナム戦争で枯葉剤を開発した会社であり、ベトナム国民に重大な健康被害をもたらしたことで有名です。

モンサントの主要なビジネスモデルは遺伝子組み換え種子と除草剤のラウンドアップの販売です。

ラウンドアップをまくとあらゆる雑草は枯れますが、モンサントの作物はそれに耐えるよ

うにされています。

更に、種をまいただけでは発芽しない様になっています。つまり自社が販売するブロック解除剤を散布しなければ発芽しないようになっているのです。

それだけではなく、種子も一代限りなので毎年購入しなければいけません。

毎年購入する種子には特許がかけられています。つまりモンサントの一声で種子の値段が変わるということです。

借金をしてでも種子と除草剤を購入できなければ農業が続けられなくなります。

また、種取り、種の保存、種の交換は特許侵害になります。

なおアメリカでは家庭菜園をすることはアメリカ自家菜園禁止法（510 法案）によって違法とされています。

家庭菜園すら特許に縛られ、自給自足ができないのです。これが日本の 10 年後の姿になるのです。

## 日本で流通している遺伝子組み換え作物とは？

日本で安全性が確認されていて、販売、流通が認められている遺伝子組み換え作物は 8 つあります。

### 【主に輸入、流通している作物】

- ・ トウモロコシ
- ・ 大豆
- ・ 綿
- ・ 菜種
- ・ パパイヤ

### 【輸入、流通の実績のない作物】

- ・ てんさい
- ・ アルファルファ

・じゃがいも

この中で海外で大規模栽培されているのがトウモロコシ、大豆、綿、菜種の4つです。

特にトウモロコシ、大豆は様々な食品に利用されます。

### 【遺伝子組み換えとうもろこし】

トウモロコシはコーン油、コーンスターチ、食品添加物の3つの用途に分かれます。

コーン油からはマーガリン、ショートニング、植物油(サラダ油)から作られ、菓子パン、お菓子、ケーキなどに使用されます。

コーンスターチからはでん粉、水あめ、醸造アルコール、ブドウ糖果糖液糖が作られ、清涼飲料水、日本酒、ドレッシングなどに使用されます。

食品添加物からはトレハロース、カラメル色素、キシリトールが作られ、ガム、カップラーメンなどに使用されます。

### 【遺伝子組み換え大豆】

大豆は大豆油、大豆たんぱく、醤油、大豆レシチン、ビタミンEの5つの用途に分かれます。

大豆油からはマーガリン、ショートニング、サラダ油、マヨネーズなどに使用されます。

大豆たんぱくは植物たんぱく、たんぱく加水分解物が作られ、カップラーメンなどに使用されます。

大豆レシチンは乳化剤として飲料、菓子、アイスなどに使用されます。

ビタミンEは主にお菓子に使用されます。

私たちが普段選んでいる食品の成分表示欄を見たら、遺伝子組み換えとは記載されていませんが名前を変えて多く含まれていることに驚くかもしれません。

食品衛生法では上記で挙げた遺伝子組み換えの8種類の作物と加工品33品目については表

示義務がされています。

原材料の上位 3 品目以外は表示義務はなく、また全重量の 5 %未満ならば表示義務がないという抜け道が用意されています。

さらに牛、豚、鶏のエサは遺伝子組み換えのトウモロコシになります。家畜が食べているエサを表示している会社は見つけるのが難しいのが現状です。

ぱっとみただけではわからないようになっているのです。

よく成分表示欄に「**遺伝子組み換えではない**」という記載がありますが実は 5 %までは混入を認めています。

しかし EU 諸国では 0,9%以上、中国は 1%、台湾は 3%混入していれば GMO の表記をしなくてはなりません。

遺伝子組み換え食品を食べ続けていたらどのような健康被害を引き起こすか想像できますか？

それでは遺伝子組み換えによる 5 つの影響を見ていきましょう。

## 遺伝子組み換え食品による 5 つ危険と影響



### ①アレルギー

遺伝子組み換えのトウモロコシの成分にアミノ酸の一種である「ヒスチジン」が含まれ、口から入ると体内の酵素で分解されます。



そして、アレルギーの原因物質である「ヒスタミン」に変化します。

イギリスでは遺伝子組み換え大豆の輸入が始まって以来、大豆アレルギーが 50%増加しているという報告があります。

また同様にロシアでも 2003 年の 3 年間でアレルギー症状が 3 倍増加したと言われていません。

つまり遺伝子組み換えトウモロコシは\*\*アレルギーリスク\*\*の増大につながる可能性があります。

ジャーナリストである堤 未果氏は、著書「日本が売られる」の中でこう述べています。

> この国では、なぜこんなに食物アレルギーで死ぬ子が多いのでしょうか？

> ここアメリカでは子供の 12 人に 1 人が何らかの食べ物アレルギーがあり、3 人に 1 人が肥満児で、6 人に 1 人が学習障害、20 人に 1 人が発作性の疾患を抱え、68 人に 1 人が自閉症。ちょっと異常だと思いませんか？

## ②抗生物質耐性菌

抗生物質が効かない耐性菌の問題が取りだたされ、世界保健機構(WHO)も「抗生物質が効かない時代が到来した」と警笛を鳴らしています。

また経済協力開発機構 (OECD) は、抗生物質処方の 50%以上は不適切であると述べています。

アメリカ産の家畜は、抗生物質漬けであり、エサも遺伝子組み換えのトウモロコシになります。

また遺伝子組み換え作物は抗生物質耐性タンパクが含まれているものがあるため、食肉を通して抗生物質が効かない耐性菌ができてしまう可能性が高まります。

## ③がん

世界保健機関（WHO）の専門組織、国際がん研究機関が、モンサントが開発した除草剤「グリホサート」に発がん性の恐れがあるとする報告書を公表しました。

除草剤のラウンドアップを使用したことで、喉に悪性リンパ腫を患った男性が、モンサントに対して損害賠償を請求していました。

2018年8月、米国サンフランシスコ州の裁判所は、モンサント社に対して2億8900万ドル（約320億円）の賠償命令を出しています。

「医者はなぜ、乳がんの「予防法」を教えないのか」の著者であるサミュエル・S・エプスタイン氏は、こう述べています。

「遺伝子組み換え食品によって、ある種のがんによる死亡率が著しく増加することは確実であろう。しかしその程度で悪影響がおさまれば、幸運と言えるかもしれない」

## ④未知なる毒素

毒物学の専門家であるE・J・マシューズ博士はこう述べています。

「遺伝子組み換え作物は、未知なる植物性毒素を高濃度に含んでいる可能性がある。その中には一般の類似種にはありえない、特殊な毒素が生まれている危険性もある」

## ⑤その他の悪影響

- ・免疫低下
- ・肥満
- ・ぜんそく
- ・糖尿病
- ・心臓病
- ・甲状腺疾患
- ・アルツハイマー病

- ・パーキンソン病
- ・不妊症
- ・肝臓、腎臓への影響
- ・内分泌かく乱作用
- ・DNA 損傷

## 遺伝子組み換え作物の世界での栽培状況

遺伝子組み換え作物は、1996年に栽培が始まって以来、世界中で急速に栽培面積を拡大しています。

2016年の時点で、遺伝子組換え作物は世界 26 カ国で栽培されています。

そして合計 1 億 8000 万 ha 以上の農地で栽培されています。

最大の栽培国はモンサントが本社を構えるアメリカになります。

次いでブラジル、アルゼンチン、カナダ、インド、パラグアイと続きます。

年々、栽培面積が拡大しています。種子法廃止により、市場が開放され日本も遺伝子組み換え大国になるのも時間の問題と言ってもおかしくはありません。

この遺伝子組み換え作物の栽培状況と比例して増加しているのが農家の自殺です。

## 農家の自殺と政府との癒着

インドの農家の自殺が止まりません。

モンサントは 1999 年、インドの綿花種子企業のマヒコを買収しました。

そして殺虫効果を持つ遺伝子組み換えされた BT 綿をマヒコ社は導入しました。

収穫量が増え、害虫などを寄せつけないという甘い文句でインドの多くの農家が話しに乗りました。

しかし、思った以上に綿の不作や病気に悩まされ、残ったのは借金だけでした。

インドのマハラシュトラ州のビダルバ地区では 2005 年に BT ワタが導入されて以来、自殺者が一日 3 人も出ていると言います。

そして 2002 年から 2012 年の 10 年間で自殺した農家は 17 万人に上っています。

モンサントは政治家に対する寄付やロビー活動よりも、政治家と個人的な人脈を作っ  
てしまえば、有利な法案を通せることを知っています。

モンサントと連邦政府との間を回転ドアのように行き来きすることをしているため、大企業に有利な法案を通すことが可能なのです。

## ラウンドアップは日本で売りましょう



グリホサートとは 1974 年にモンサント社が開発した除草剤です。

「ラウンドアップ」という商品名で販売されており、日本ではモンサント社と提携した住友化学が販売しています。

ホームセンターなどに行けば、ラウンドアップが山積みで展開されていたりしますので、見たことがある方は多いのではないのでしょうか。

2015年に世界保健機関(WHO)の専門組織の国際がん研究機関(IARC)が、ラウンドアップの主成分である「グリホサート」について発ガン性の懸念があると発表しています。

アメリカ環境保護庁によれば、2007年には約1億8500万ポンドのグリホサートを使用していますが、この量は2001年の約2倍の量になっています。

使用する農薬の量が増えれば、その分残留農薬も増えることとなりますが、日本政府はその度に、残留農薬の基準を引き上げるということをしています。

遺伝子組み換え作物の栽培状況が世界第三位であるアルゼンチンでは、2005年から2009年の間に、GMO作物が栽培されている周辺地域で、癌性の腫瘍が全国平均の2倍になりました。

アルゼンチンの3万人以上の医師や医療専門家が、ラウンドアップの禁止を政府に求めています。

またコロンビア、スリランカ、オランダ、デンマークは使用を禁止にしており、ヨーロッパでも反モンサントの勢いは止まらない状況です。

徐々にラウンドアップの危険性が、世界に認識されはじめ、2016年には欧州委員会はラウンドアップの使用延長を見送ることを発表しました。

ラウンドアップが売れなければ、在庫を多く抱え込むことになります。

しかし、日本は寛容なのか、それとも圧力の影響なのかラウンドアップを受け入れている状況です。

## ミツバチが消える蜂群崩壊症候群

「ミツバチが絶滅すれば4年後には人類が減じる」と語ったアインシュタイン。

人類の食料の3分の1はミツバチの受粉のおかげです。

2006年頃から米国やヨーロッパで、大量のミツバチの失踪がみられるようになりました。

大量のミツバチが突然消えることを「蜂群崩壊症候群」と呼びますが、その原因や発生メカニズムは諸説あります。

しかし、原因がモンサント社のラウンドアップであることが指摘されています。

2015年の調査では、通常の蜂蜜の62%と有機蜂蜜の45%に、基準値以上のグリホサートが含まれていました。

また、よく知られているビール15種類とワイン5種類の20種類を調査したところ、19種類からグリホサートが検出されています。

米ハーバード大学の研究者らは、ミツバチと同じ大きさの超小型飛行ロボット「Robobee(ロボビー)」を開発していると言います。

自然の摂理をロボットで代用するのは、順番が違うことに気づかないのでしょうか？

物事の原因と結果を見極め、ラウンドアップを減らすことからはじめなければいけないはずです。

テクノロジーが進化しても病気が増え続けたら、本末転倒です。

## 私たちができること



スーパーマーケットやコンビニの商品のラベルを見たら、多くの遺伝子組み換えが添加されていることに気づきます。

果糖ブドウ糖液糖、異性化液糖、コーンスターチ、調味料（アミノ酸等）、たんぱく加水分解物、乳化剤などと表記されているものの、ほとんどが遺伝子組み換えであり、多くの食品や飲料に入っています。

加工品はもちろんのこと、お菓子、ビール、酎ハイ、清涼飲料水などの表示欄を一度見てみてください。

加工品を避け、新鮮な食材を食べることは、身体を作る基本です。

そのために地元で生産されている新鮮な食材を、購入するようにしましょう。

オーガニックストアやファーマーズマーケットなどを利用しましょう。

ネットで信頼できる生産者を探し、配送してもらうこともできます。

外食や加工品は、原材料が不透明なため遺伝子組み換えが含まれている可能性が高まります。

海外の商品の中では、ラベルに「NON GMO」などと記載しているものがあります。

食品の選択は、体に影響を与えますので意識するようにしてください。

## 最後に

「食料をコントロールする者が人々を支配し、 エネルギーをコントロールする者が国家を支配し、 マネーを支配する者が世界を支配する」

ヘンリー・キッシンジャーは、このような言葉を残しています。

つまり食を支配することは、国家を支配することにつながります。

その手段として TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）や種子法廃止があります。

この影響を受けて、日本における遺伝子組み換え市場は拡大すると予想されます。

また遺伝子組み換えの表示義務もおそらく撤廃されるはずです。

政府は遺伝子組み換えの企業に対しては何も言えなくなり、農家も甚大な被害を受けることになり、私たちの健康被害はさらに大きくなるでしょう。

大企業が情報を有利に操作できてしまうため、厚生労働省など大きな機関が、遺伝子組み換えは安全ですというようなアナウンスには誘導されないようにしてください。

日本は積極的に遺伝子組み換えを推進していますが、世界は違います。

特にヨーロッパは遺伝子組み換え作物に対して反対のスタンスをとっています。

その結果、モンサントはヨーロッパでの遺伝子組み換え作物の推進とロビー活動を終了させると発表しました。

フランス、ハンガリー、ベルギー、ロシア、台湾、南米のペルーでは国民の健康、国益を徹底して守るスタンスを貫いています。

除草剤のラウンドアップが 100%安全としながらも、癌などの健康被害が多発しているため、モンサントに対して数百件の訴訟が現在進行中です。

まだまだ日本にも遺伝子組み換えを排除するチャンスは残されています。

食はあなたの身体をつくる根幹です。

そして知識は力になります。無知は大切な人を守ることができません。

食に対する考え方を見直すきっかけにして頂ければ幸いです。

最後まで読んで頂き、ありがとうございました。

---

健康管理士と NLP(神経言語プログラミング)の観点から見た医食同源についてのサイトを運営中です。

[食と身体を考える](<https://naturahtaomedical.com/>)



食という字は『人』を『良く』すると書きます。

医食同源という言葉が示す通り、元来、食べ物には病気を予防する力が備わっています。

食生活や病気に対してのカウンセリングやアドバイスを行っています。